

平成29年度 事業報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1 概 要

平成29年度は、7月の九州北部豪雨や10月の新燃岳の噴火など、前年同様自然の驚異を痛感させられた一年でしたが、最年少棋士 藤井四段の活躍や陸上男子100メートルで日本人初の10秒の壁を破る9秒98を出した桐生選手の活躍といった明るい話題もありました。しかし、何といたっても我々広島県民にとっては、プロ野球広島カープが快進撃を続け37年ぶりの2連覇を達成したことが記憶に残る嬉しい出来事でした。

一方、国内の経済状況は、引き続き緩やかな回復傾向が続いているとされていますが、10月の衆院選で政権与党が圧勝したものの、その後、前年2月に発覚した森友問題に端を発し、加計学園問題、防衛省問題等政権を揺るがすような大問題が続き、先行き不透明な政情不安が今後の日本社会全体に及ぼす影響が懸念される事態となっています。

このような状況下、当センターの平成29年度事業実績は、対前年度比で受託件数は186件減少し、契約額も209万8千円減少しました。

経常収益合計では、昨年度実績を219万9千円下回りましたが、経常費用も昨年度実績を432万9千円下回り、当期経常増減額は176万7千円のプラスとなりました。

4年間続いたマイナス決算がプラスに転じたとはいえ、今後も事業を取り巻く環境は厳しさを増すものと予想され、今にも増して多様なニーズに対応できる組織を構築し、安定した財政運営が継続できるよう、会員・役職員の総力を結集して取り組んでいきます。

以下、平成29年度において実施した事業の実績概要を報告いたします。

2 事業内容

(1) 正会員の状況 《公1》〔1〕4-(1)・(4)

平成29年度末の在籍会員数は280人(男性165人、女性115人)で、前年度末に比べ12人の減となりました。

新規入会者は28人(男性14人、女性14人)、退会者は40人(男性25人、女性15人)となっています。

(2) 就業状況 《公1》〔1〕4-(3)

年間を通じての就業会員数は、280人中254人で、就業率は90.7%と前年度(90.1%)を0.6ポイント上回りました。

男女別の就業率は、男性90.9%、女性90.4%となっています。

また、就業延人員は27,853人で、前年度に比べ2,651人減少しました。

(3) 受注状況 《公1》〔1〕4-(3)

平成29年度の受託件数は4,012件で、対前年度比95.6%、件数にして186件の減となりました。これを職群別で見ると、除草、清掃、草刈等の「一般作業群」が2,574件(全体比64.2%)、剪定、襖・障子の張替え等の「技能群」が832件(全体比20.7%)、福祉家事援助、家庭内清掃等の「サービス群」が339件(全体比8.4%)となっており、この3職群の合計は総受託件数の93.3%に達している状況です。受託契約金額は、134,657千円で対前年度比98.5%、金額にして約209万8千円の減となりました。

発注者別の構成比では、公共事業が49,231千円(公民比36.6%)、民間事業が85,426千円(公民比63.4%)と、年々公共事業のウエイトが高まる状況となっています。

3 事業実施状況

(1) 普及啓発活動 《公1》〔1〕4-(1)・(5)

高齢者の能力を生かした活力ある社会づくりを目指すシルバー人材センターの役割が益々重要視されてきているにも拘わらず、その内容が市民に十分周知されていない状況があります。

そのため、市広報紙・ミニコミ誌への掲載、ホームページの随時更新、会報の発行、啓発チラシの新聞折込等による普及啓発を実施しましたが、会員数は年度当初より12人減少しました。

(2) 安全・適正就業確保 《公1》〔1〕4-(2)

安全就業対策については、職群班毎の就業前ミーティングでの意思統一、安全委員・推進員による就業現場への巡回指導等により、会員の事故に対する意識高揚を図り、事故の未然防止に努めてまいりました。

しかし、平成29年度の就業中の事故は、重篤事故こそ発生していませんが、保険対象となった事故は物損事故2件（前年度1件）、傷害事故も1件（前年度3件）発生しました。

また、会員の安全意識の高揚を図るための、安全就業標語の募集には、44人から111作品と例年になく多くの応募があり、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を選出しました。

適正就業の確保については、シルバー就業の基本である「臨・短・軽」を遵守するよう、ワークシェアリングを推進し就業率の向上を図りました

(3) 就業分野の開拓・拡大 《公1》〔1〕4-(3)

シルバーセンターが高齢者の受け皿として十分な機能を果たし、地域社会の支え手となるためには、会員の拡大を図ると共に就業分野の開拓・拡大が必要不可欠です。平成29年度の受託件数は前年度を186件下回りましたが、依然として就業分野を拡大しても就業会員不足で受注決定できないという悪循環が続いています。

(4) 相談・情報提供 《公1》〔1〕4-(4)

センター事業の持続的な成長のために必要不可欠な会員確保と就業開拓に向け、啓発チラシの配布やホームページ等による情報提供を行い、センター業務の周知を図ってきましたが、前記のとおり会員数は年度当初比で12人の減となりました。また、退会防止策として未就業会員に対する就業相談を行い就業率向上に努めた結果、就業率は90.7%と前年度(90.1%)を0.6ポイント上回りました。

(5) 社会参加活動の推進《公1》〔1〕4-(5)

地域貢献によって社会とのつながりを深めることと併せ、シルバー事業の普及啓発を図るため、シルバーの日の10月21日に府中公園・上下駅・北市民病院周辺の草刈り・剪定・清掃作業などのボランティア活動を実施しました。

しかし、参加者はここ数年60名程度(会員数の約2割)で推移しており、改めてボランティア活動の重要性の意識啓発を図ることと併せ、市内で開催される諸行事への参加など、ボランティア活動以外のシルバーパワーをPRできる社会参加活動を検討していく必要がある。

(6) 組織体制の充実強化

会員の自主的・主体的運営はセンターの組織運営の基本であり、そのためには理事会・総会での方針決定の下、各種委員会活動や職群班などを通じ、会員一人一人が積極的に組織活動に取り組むことが求められますが、安全委員会や一部職群班の事業調整などを除き、目立った活動はありませんでした。

また、より地域に密着した組織の構築を目指すために、数年来活動を休止している地域班を再編成する計画も達成できず、今後の課題となりました。

(7) 健全財政の推進

センターの財政状況は、今年度の決算は黒字となりましたが、この要因は事務費を10%に上げたことによるもので、受託契約金額は年々減少してきています。

また、国・市の補助金も前年度並みの額は確保できましたが、今以上の増加は見込めず、今後も就業分野の開拓・拡大に努めるとともに支出を抑制し、事業運営基盤の強化・安定化を図っていく必要がある。

(8) 事務局機能の充実及び関係団体との連携

職員の資質向上に向け、県連合主催の各種事務担当者研修会に参加し、米子市で開催された中国ブロック研修会には実務担当者研修会・役職員研修会に合わせて7名が参加しました。

また、今年度は、各市町持ち回りで開催している備後地区シルバー人材センター連絡協議会（三原市・尾道市・福山市・府中市・神石高原町・世羅町の4市2町で構成）を当市で開催し、各センターが抱える課題の協議や情報交換を行いました。

今後も、研修会などには積極的に参加し職員の資質向上や事務作業の効率化に努め、関係行政機関や他団体等との連携を密にし、事業の拡大と円滑な推進に努めていきます。

【事業報告の附属明細書】

事業報告の附属明細書については、平成29年度事業報告においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条に定める「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありませんでした。